

## 令和5年度 日本生物教育会全国支部長会(オンライン) 資料

## ・議 事

- |                        |          |
|------------------------|----------|
| 1. 令和4年度・事業報告          | 事務局・事務局長 |
| 2. 令和4年度・決算報告          | 〃 ・会計    |
| 3. 本部役員人事              | 会 長      |
| 4. 各ブロック担当副会長の人事       | 〃        |
| 5. 令和5年度・事業計画          | 事務局      |
| 6. 令和5年度・予算案           | 〃        |
| 7. 大会ローテーションについて       | 〃        |
| 8. 日本生物教育会賞および中路賞について  | 〃        |
| 9. 日本生物教育会感謝状贈呈者推薦のお願い | 〃        |
| 10. 共通テスト検討日程について      | 〃        |
| 11. 日本理科教育協会理事会報告      | 〃        |
| 12. その他                | 〃        |

## ・報 告

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. 令和4年度全国大会報告   | 北海道 |
| 2. 令和5年度全国大会について | 大阪府 |
| 3. 令和6年度全国大会について | 東京都 |
| 4. 令和7年度全国大会について | 新潟県 |

## ・その他

## 1 令和4年度 事業報告

令和4年 5月18日(水) 全国支部長会(オンライン開催)

8月 2日(火) 全国理事会

8月 2日(火)～4(木)、一部現地研修は、5日(金)まで

**令和4年度(2022年度)全国理科教育大会・第93回日本理化学協会総会 及び**

**令和4年度(2022年度)日本生物教育会(JABE)第76回全国大会 合同北海道大会**

(1) 主 催 日本生物教育会 北海道生物教育会

日本理化学協会 北海道高等学校理科研究会

(2) 主会場 市立札幌開成中等教育学校 (北海道札幌市東区北22条東21丁目1-1)

(3) 参加状況 参加者数 189名 (道外参加者 76名 道内参加者 113名)

(4) 大会内容

① 記念講演 北海道大学博物館 教授 小林 快次 氏

演題 『恐竜研究の最前線』

② 研究発表・ポスターセッション・展示

研究発表

区分①：主として教材研究・実験観察に関するもの 8本

区分②：生物教育・指導法に関するもの 9本

区分③：主として自然・環境教育に関するもの 6本

区分④：学術研究に関するもの 1 本  
ポスターセッション

6 本（教員 4 本、生徒 2 本）

③ 研究協議 理化学協会と合同で 1 2 分科会

④ 実験研修・現地研修

1 泊 2 日 3 コース 半日 4 コース

⑤ 大会記念誌『生物いきいきハンドブック～探究授業の実践事例集～』

令和 5 年 2 月 1 8 日(土) 共通テスト試験講評会(オンライン開催 参加者数 約 70 名)

2 月 2 7 日(月) 共通テスト評価報告を大学入試センターに提出

3 月 2 0 日(月) 本部役員会は 4 月 1 5 日に延期

## 2 決算

### 日本生物教育会

#### 2022年度(令和4年度) 決算報告

令和5年5月15日

#### 1. 収入の部

項目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	1,539,952	1,539,952	
支部分担金	1,025,000	1,075,000	
賛助金	0	0	
補助金	0	0	
雑収入	0	1,000	個人会費
合計	2,564,952	2,615,952	

#### 2. 支出の部

項目	予算額	決算額	備考
上部団体分担金	10,000	0	
大会補助金	400,000	400,000	北海道大会
印刷費	400,000	280,577	「生物研究」「役員名簿」
通信・運搬費	200,000	96,992	資料発送経費、送金手数料
消耗品費	150,000	30,382	封筒、コピー用紙
会議費	250,000	26,409	インターネット会議代
雑費	0	14,850	香典他
旅費	100,000	2,444	交通費
次年度運用金	800,000	0	
予備費	254,952	0	シンポジウム講師代
合計	2,564,952	851,654	

収入の部－支出の部＋繰越金 = 2,615,952円 - 851,654円 = 1,762,298円  
(令和5年度へ繰り越し金)

上記のとおり令和4年度決算を報告します。 令和5年5月2日 会計 堀部直美

上記会計監査の結果、令和4年度報告は適正であると認めます。

令和5年5月 日 会計監査 都築 功

本部の資金は逼迫した状況ではありませんが、令和3年度は収支がほぼ等しくなっておりました。そこで、資金を目減りさせないためにも、本部からの発信はメールを主として、郵送は必要最低限にさせていただきます。その他、本部として様々な経費の節減に努めた結果、繰越額が増加しました。令和4年度分分担金については、お陰様で、加盟全支部からの納入が完了いたしました。ご協力に感謝いたします。

現行の学習指導要領が示される前に、2015年に文部科学省の藤枝先生をお招きし、また、その際、全国の先生方の意見を集約した都生研教育課程委員会のメンバーを派遣して勉強会を開催しました。同様のことを次回も行う場合は、交通費がかかります。また、コロナの扱いが5類に移行したのを受けて次年度以降の全国支部長会を対面に戻した場合、会場経費がかかりますので、資金は確保しておきたいと考えています。

### 3 本部役員人事(令和5年度) 案

\* 新任(敬称略)

会 長	東京都立立川高等学校校長	鈴木 宏治
副会長	成城学園中学校高等学校校長	中村 雅浩
〃 (統括)	東京都立三田高等学校校長	内田 隆志
〃	東京都立永山高等学校校長	萩谷 磨
〃	東京都立町田総合高等学校校長	後藤 洋士
〃	東京都立大山高等学校校長	田川 健太
〃	東京都立新宿高等学校副校長	成島 巧二*
〃 (事務局長)	東京都立新宿高等学校指導教諭	渡邊 正治
監 査	元副会長	都築 功

### 4 ブロック担当副会長(令和4年度のもの)

- ・北海道・東北ブロック担当： ※ご退官 青木 保繁 (北海道札幌あすかぜ高等学校校長)
- ・関東ブロック担当： 長屋 昌恵 (群馬県立尾瀬高等学校校長)
- ・中部ブロック担当： 鈴木 正博 (愛知県立豊明高等学校校長)
- ・近畿ブロック担当： 柴原 信彦 (大阪府大阪市立新高小学校校長)
- ・中国・四国ブロック担当： ※ご退官 土肥 直樹 (岡山県倉敷市立精思高等学校校長)
- ・九州ブロック担当： 豊福 成史 (福岡県立田川高等学校校長)

令和5年度 北海道・東北ブロック及び中国・四国ブロックについては、立候補がなければ、北海道及び岡山県の新支部長の先生にお願いしたいと考えております。

## 5 令和5年度 事業計画

令和5年 4月15日(土)	本部役員会 応募論文審査
5月15日(月)	全国支部長会(オンライン) 18:30~ Zoom
6月5日(月)	感謝状推薦〆切
8月9日(水)	令和5年度 日本生物教育会(JABE) 第77回全国大会大阪大会 会 場 近畿大学 東大阪キャンパス
8月9日(水)	全国理事会『生物研究』第62号・理事名簿発行
8月10日(木)	総会・研究発表・研究協議会
8月11日(金)	記念講演・シンポジウム 午後から実験講習・現地研修
8月12日(土)	(一部現地研修は8月13日まで)
大会ホームページ	<a href="https://sites.google.com/view/jabe77osaka/home?authuser=0">https://sites.google.com/view/jabe77osaka/home?authuser=0</a>

この他に、東京都生物教育研究会との共催で、「新課程 生物基礎」についてのシンポジウムを7月と秋に計画中です。

令和6年 2月17日(土) 予定	共通テスト分析会(対面・オンライン)
2月23日(金) 予定	大学入試センターへ検討結果提出
3月10日(日)	日本生物教育会応募論文締切
3月下旬	応募論文審査(未定)

## 6 令和5年度予算

### 日本生物教育会

2023年度(令和5年度) 予算(案)

令和5年5月15日

#### 1. 収入の部

項目	予算額	備考
前年度繰越金	1,762,298	
支部分担金	1,025,000	令和5年度分
賛助金	0	
補助金	0	
雑収入	0	
合計	2,787,298	

#### 2. 支出の部

項目	予算額	備考
上部団体分担金	10,000	日本理科教育協会
大会補助金	400,000	大阪大会
印刷費	400,000	「生物研究」「役員名簿」
通信・運搬費	200,000	資料発送経費、送金手数料
消耗品費	150,000	封筒、コピー用紙
会議費	250,000	全国支部長会、本部役員会等
旅費	200,000	
次年度運用金	800,000	
予備費	377,298	
合計	2,787,298	

7 大会ローテーションについて

新型コロナウイルス感染拡大への対応のため、令和2年長野大会から順次1年ずつ延期しました。

☆全国大会開催地・予定地

令和4年 北海道（理化学協会共催） 令和5年 大阪府  
 令和6年 東京都 令和7年 新潟県 令和8年 石川県 令和9年 愛知県(検討中)

参考資料

第1回以来の開催地（第80回石川大会まで、昭和34年沖縄大会は、特別開催）

① ブロック別開催回数

ブロック	北海道・東北	関東	東京	中部	近畿	中国・四国	九州
開催回数	11	8	8	15	14	15	10

② 都道府県別開催回数

8回 東京 5回 北海道 大阪 3回 石川 愛知 岡山  
 2回 宮城 群馬 千葉 山梨 長野 岐阜 富山 京都 奈良 兵庫  
 広島 島根 山口 愛媛 福岡 熊本 沖縄  
 1回 青森 岩手 山形 福島 栃木 茨城 新潟 静岡 福井 三重  
 和歌山 滋賀 香川 高知 徳島 大分 宮崎 鹿児島 佐賀 長崎  
 未開催 秋田 埼玉 鳥取

③ 最近20年間のブロック別開催地（第55回～第77回大阪大会まで）

ブロック	北海道・東北	関東	東京	中部	近畿	中国・四国	九州
開催回数	4	3	2	2	3	5	3

8 生物教育会賞応募論文及び入選論文

・『生物研究』に対する論文の応募が1件ありました。本部役員幹部による査読を経て、4月の本部役員会の中で審査を行い以下の通り決定いたしました。

【金賞】 筑波大学付属駒場中・高等学校 内山智枝子先生  
 「イネの「遺伝子の違い」と「形質の違い」を実感する手動PCR実験」

【中路賞】 応募なし

高校での生徒実験になかなか導入しにくいと思われるPCRによる遺伝子解析を、手動PCR法により安価で手軽にできる方法を使って実践されたこと、きわめて身近で、食感で遺伝子の違いが体感できる米という材料を使ったこと、教員研修、授業実践の両方を行い調査結果をきちんとまとめていること、など今後多くの学校での授業で活用できる内容であると評価されました。論文は『生物研究62号』に掲載されます。

今後も会員の皆様には奮ってご応募いただきたいと思います。投稿規定は、『生物研究』に掲載しています。令和6年は3月10日〆切とさせていただきます。

9 日本生物教育会感謝状贈呈

5月7日にメールで全国の各支部に推薦のお願いを発信しました。6月5日(月)締め切りで集約します。

## 1 0 共通テスト検討日程について

共通テスト問題についての初の検討会は、今年もオンライン開催となりました。検討会には、約 70 名の先生方ご参加くださり、貴重なご意見をお寄せいただきました。今年度も、生物選択者にとっては厳しい結果となりました。問題の難易度と分量を適正なものとし、科目間での有利・不利の差がでないように要望いたしました。講評の内容は、『生物研究』に掲載しています。今回は、令和 6 年 2 月 17 日（土）にオンラインで検討会を予定しています。今後も、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 1 1 日本理科教育協会理事会報告

日本理科教育協会とは、日本生物教育会、日本理化学協会、日本地学教育学会、全国中学校理科教育研究会、全国小学校理科教育研究会の 5 団体で構成する組織で、理科教育の推進や相互の情報交換を目的に年 2 回理事会を開いています。令和 4 年度は 7 月と 2 月にオンラインで開催されました。令和 7 年に理科教育振興法制定 70 周年記念式典を開催予定で、令和 5 年度から、日本理化学協会を中心に準備をはじめ、令和 7 年は日本理化学協会を幹事として実施予定です。『理科』（デジタル復刊第 6 号）が 1 月に発行されました。『生物研究』（Vol.62）に掲載する予定です。

## 1 2 その他 会務報告

- ・第 76 回北海道大会は理化学協会と共催で、市立札幌開成中等教育学校にて同時開催されました。コロナの扱いが 2 類の状況下の中でも、充実した大会になりました。特に研究協議は日本理化学協会との共催のメリットが最大限活かされた充実した内容でした。恐竜研究の国内第一人者の小林 快次先生をお招きしての講演会や現地研修は好評でした。記念誌も、観点別評価・探究活動の参考になる充実した内容でした。北海道支部からのご報告をお願いいたします。
- ・第 77 回大阪大会について、大会実行委員会から PR をお願いいたします。
- ・第 78 回東京大会について、大会実行委員会から PR をお願いいたします。
- ・第 79 回新潟大会について 進行状況の報告をお願いいたします。
- ※ 第 80 回石川大会、令和 9 年開催検討中の愛知県からも状況報告があればお願いいたします

支部分担金の納入は、前述の通り、令和 4 年度に関しては加盟前支部からの納入が完了しております。オンライン会場確保、発送、会誌発行に余裕ができました。ご協力ありがとうございました。

・支部分担金は、規約により各支部の校数によって規定されています。都道府県あたりの学校数は、文部科学省の調査をもとにしています。

分担金の基準 1 支部あたりの校数

49 校以下 15,000 円 50~149 校 25,000 円 150 校以上 35,000 円 東京と大阪 50,000 円

- ・会費未納となっている東北 3 県の支部活動の活性化は、数年来の課題となっています。

## — 名誉理事の推薦について —

本会の名誉理事は、各支部の推薦により、会長が認めて決定になります。推薦がございましたら、どうぞ、事務局へご連絡をお願いいたします。

事務局年間作業予定（参考）

4月	・全国大会後援等申請 ・本部役員会開催
5月	・全国支部長会開催） ・大会案内（ホームページ等） ・感謝状推薦依頼
6月	・感謝状贈呈者推薦〆切（6月5日） ・名簿作成用の原稿（電子データ） ・参与・名誉理事に案内送付・授賞者へ授賞通知（本人へ） ・日本生物教育会賞授賞者 所属長へ連絡 ・支部役員名簿更新
7月	・会誌原稿等編集・校正・理事名簿更新 ・「新課程 生物基礎」についてのシンポジウム 第1回
8月9日	・全国理事会・開催
8月10日	・全国大会開会式・総会 ・感謝状贈呈「生物研究」「名簿」発行
8月下旬	「理事会報告」「生物研究」「名簿」を支部へ送付 「生物研究」「名簿」を名誉会長、参与、名誉理事へ送付
10～11月	新課程 生物基礎」についてのシンポジウム 第2回
12月～1月j	・次期大会事務局へ行事計画、大会日程、予算書の作成依頼、(理科教育協会理事会) ・新共通テスト検討及び大学入試センターへ報告のためのアンケート送付（メール）
2月後半	・共通テスト講評会（オンライン）意見集約、大学入試センターへ、検討結果報告
3月 中旬 下旬	・本部役員会 論文審査 日本生物教育会賞授賞者へ授賞通知（本人へ） ・異動調査（メールにて）